

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：宗田 市太郎 幹事：平尾 信明

情報委員長：清水 忠

1977・4月14日

第88号



縁の下の力持ちの名人たち

—「お、ロータリアン——ロータリーとは」誕生

東京南 安積 得也

生れた！

生れた！

「お、ロータリアン——ロータリーとは」

問うこと勿れ

生れたホワット (What) を

君は問え

生み出したハウ (how) を

ぼくは合掌する

誕生4年にもみたくない

金沢北クラブの40人が

心の体温をよせあって

汗の一卷を生み出した至芸を

「最少の会員 最大の奉仕」

それは看板用のタテマエでなかった

したたる汗のホンネがそこにある

あの最少の会員たちは

そろいもそろって

縁の下の力持ちの名人だ

「ご丹精の一卷が生まれましたね」

桜の東京から電話したら

名人の一人が声はげまして

兼六園の向うで言った

「ハイ

誕生の夜は

一晩中抱いて寝ました」

それをきいてぼくは

“Service” I believe in Rotary

恥ずかしくなった
ほくのクラブは何をしたろうか
「最大の過失」と題して
一人の作家が言った
「何もしない人に過失はない
しかし
何もしないことほど大きな過失が
人生にあらうとは思えない」

(昭和52年4月7日 旅先の大阪にて)

註 「一人の作家」とは“次郎物語”の下村湖
人さんで、その著“心窓去来”に。

ノートルダム清心女子大学学長

渡辺 和子

(シスターセントジョン)

春のよい気候となりました。

ただ今「お、ロータリアン」を拝受いたしました。自分の拙いお話を恥しく思いながら、このように立派なご本が出来上ったことを心からおよこび申し上げます。

ありがとうございました。

ロータリーの友委員長

国際ロータリー第361地区

パスト・ガバナー 安野 讓次

前略 春とは申せお寒い日が続きますが、益々御健勝の趣、大慶に存じます。

扱て、この度は「お、ロータリアンロータリーとは」を御恵送賜り有難く厚く御礼申し上げます。

素晴らしい講演集で貴台の平常のお考えが非常によく反映致して居る様に存ぜられます。どうぞ今後共宜敷く御願ひ申し上げます。

国際ロータリー第361地区

パスト・ガバナー 安田 常男

早春の候 益々ご清栄の御事とお慶び申し上げます。

さて、この度は「お、ロータリアンロータリーとは」をお送り下さいまして洵に有難く受領致しました。謹んで厚く御礼申し上げます。尚、貴クラブに於かれましては意義ある業績賞の受賞決定せられましたことは誠にご同慶の至りと存じ上げ、衷心からお祝い申し上げます。

“奉仕” ロータリーを私は信奉する

国際ロータリー第366地区

パスト・ガバナー 塚本 義隆

拝呈 「お、ロータリアンロータリーとは」第2集を新たに編集・印刷なされ、早速その一本をご恵与下さりお礼申し上げます。
たゆみなきロータリーへのご熱意、敬服の極みです。
楽しんで一読の上、できるだけ多くの方々に読んでもらうように宣伝いたします。

国際ロータリー第361地区

パスト・ガバナー 西 泰 蔵

「お、ロータリアン」第2集 第1集（職業奉仕研修会）に続いて第2集刊行には敬意を表します。
ロータリーとはその内容がよろしい。柴田三郎さんの御指導もよく金沢北クラブの全員の勝利です。

国際ロータリー第361地区

パスト・ガバナー 九 鬼 寿 園

貴クラブ発刊「お、ロータリアン」当方、R.C 会長に托し下さいまして、正に落手いたしました。
御厚情心から感謝いたします。早速拝読、教えられるもの多々ございます。
貴クラブの益々の御発展を祈ります。
以上、御厚礼申し上げます。

国際ロータリー第352地区

パスト・ガバナー 佐々木統一郎

本日は「お、ロータリアン」第2集御届け下さってありがとうございます。
渡辺先生は、盟友齊木亀治郎君のガバナー時代たしか大会で特別講演を御引受けになり、その大要を拝読し、感銘を受けたのが最初で之の度の札幌5地区連合大会にも、私から女性講演者No.1として御推薦申し上げたイキサツもあり、心嬉しく再び拝読をさせていただいています。又、安積先生は佐藤パストガバナーを通じ、例の「世界市民」の名著なども拝読して居ります。
佐藤君に就てはロータリアンなら知らぬ御仁はないと思います。
兎に角、貴クラブのアイデアと行動性に改ためて敬意を表します。

“Service” I believe in Rotary

国際ロータリー第354地区
パスト・ガバナー 黒田 政文

謹啓 ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。
さてこの度は、「お、ロータリアンロータリーとは」をご恵送いただき誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。
次回例会4月5日にて皆さんにごらんに入れ、ご注文を頂きたく存じます。中の内容のすばらしいのに敬服の他ありません。

国際ロータリー第356地区
佐渡RC 植田 五一郎

診察中でしたが、ロータリーの本が到着すると気嫌良くなるのが自分でも分ります。第2集も大ヒットですね。
佐渡RCの会員に大変良い教科書として奨めたいと思います。
第1集と違った意味で立派なものと感じ、心を打たれました。
ポールハリスの心の内もきっと渡辺和子先生のいっておられるような心であったのでしょうか。

寒 牡 丹

黒田桜の園先生
(金沢南RC会員)



“お、ロータリアン第2集の表紙画は素晴らしい”という讃辞を聞く。その素晴らしい緋牡丹を描いて下さった桜の園先生の名随筆“寒牡丹”を、先生のお許しを得て掲載します。(編集子)

穴虫峠を越えると、土の色までも急に、大和らしい色に思われて来た。T君は古代史の学者で、彼は運転の合間にも、助手席の私に矢つぎ早に説明されたのだが、景の過ぎる速度が早くて、ゆっくり観賞する暇もない。

幾度か、見知らぬ村を入ったり出たりして、やっと広い道に出た。

「そろそろ二上(にじゅう)山が見えるはずだが」というのだがなかなか見えて来ない。

うつそみの人にあるわれや あすよりは ふたかみやまを 弟世(いろせ)とわがみむ
大津皇子を葬ったとき、姉君の大来皇女(おおくのひめみこ)がその悲しみを詠んだ万葉集中の一首であるが、やっと二上山が、前方の部落の上に現れた。どうもその部落が、当麻村であるらしい。狭い道に入った。

当麻寺は、戦争中、ある年の春3月、子供をつれて来たことがあった。3月とはいえ、奈良盆地の春の夕暮れの寒さは、連れの子供心をひどく侘(わ)びしくさせたものか、急に泣かれて手こずったことが、きのうのこのように思い出されるのであった。

道は当麻寺の門前から、右にやや坂がかかったところに、半ば土に埋もれた石光寺の道標が立っていた。その坂をのぼると、目的の石光寺の石段の下に出た。東門をくぐって、まず目に入ったものは、川砂を二つ山盛りにした「想観の砂」と高札された異様なものに逢(ほう)着した。

T君はこの住職とは昵(じっ)懇であるらしく、右手の庫裏の入り口に入場券を売っているジャンパー姿の男とあいさつをかわしていた。私は弥勒(みろく)堂の前から左に折れた庭の小径「みち」を歩き出した。

11月ごろから2月にかけて咲く寒牡丹(ぼたん)は霜囲いの藁(わら)帽子をかぶったものが、ところどころに散在していた。住職の話では、株は約1,000本で30種のもものが咲きつぐというのである。

径より一段と高くしつらえられた花床の中の藁苞(わらづと)の一つを覗(のぞ)くと、緋(ひ)色のさかりをすぎた、やや小づくりの牡丹の花が昏(くら)く見られた。

それは寒さのせいであろうか、馥郁(ふくいく)たる牡丹特有の香りも匂(にお)ってこない。まるで未熟児の手足のように、いじけた、貧しいみどりの葉を見ていると、大和本草の一章が思い出された。

「寒牡丹は 人功を以て 天地造化の力を盗んで 之を成す 良に怪しむべきものなり」
寒中凜然(りつぜん)ととりすました老妓(ぎ)のふだん着の八ツ口から覗くもみ裏の緋にも似た寒牡丹を想像して来たのに意外でもあった。

その小径の中ほどに、今を盛りに咲いている一樹の紅梅の方がむしろ厳しくって気品を漂わせていた。しばらく立ちどまって、よく掃き清められた径を見ていると、明るい日ざしの中にもまだ春の寒さを伴った微風が立って、その掃き寄せた塵(ちり)を吹き散らしている。

静かな大和の郷愁を秘めた古い土の小さな動きがここにもある。

昭和20年8月15日、この地に疎開して天皇の放送を涙して聞かれた 労咳(がい)の俳人・日野草城の一句が、ふと私の心を掠(かす)めるのであった。

二上を瞻(み)てをり いくさ果しなり

(俳人・金沢)

